

《雑学風味》「消火に使った水道料金」

「水道法」によって「水道事業者は、公共の消防用として使用された水の料金を徴収することができない」と定められています。ゆえに、水道料金は水道事業者が負担することになるようです。

まちのできごと

恒久の平和を願ひ

藤里町戦没者追悼式

8月20日、総合開発センターにおいて戦没者追悼式が挙行され、遺族の方々や関係者ら約60名が出席しました。

戦争終結から63年目を迎えた今年は、戦没者209名の英霊に黙とうを捧げた後「遠い異郷の地で、祖国を思い、愛しい家族を案じながら戦渦に倒れていった戦没者の方々に改めて思いを馳せ、心からご冥福をお祈り申し上げます。今年も各地で平和を願う鐘が鳴りましたが、この祈りの日を契機に、平和や自由の尊さ、核兵器の恐ろしさを末永く次の世代に語り継ぎ、恒久平和の実現を目指して参りたい」と石岡町長より式辞が述べられました。

続いて、伊藤山本福祉事務所長や藤原町議会議長、遺族会を代表して伊藤勉さんより追悼の言葉が述べられ、その後、遺族や来賓らは祭壇に献花をして戦没者の冥福を祈るとともに、世界の恒久平和を誓いました。



恒久平和を願ひ

全国から多数の参加

地域福祉実践研究セミナー

8月28日、30日の3日間にかけて、「第14回地域福祉実践研究セミナー」が総合開発センターを主会場に開催され、全国から約150人と、町民ボランティア250人が参加しました。

このセミナーは「つながりがつくる元気の出るまちづくりー住民とともに歩むコミュニケーションソーシャルワーク」をテーマに、日本地域福祉研究所と藤里町社会福祉協議会が主催し、全国の地域福祉に関わる様々な分野の実践家により、それぞれの地域において、草の根の様な地域福祉実践の展望を目的に行われました。



三者による鼎談

初日に行われた日本地域福祉研究所の大橋理事長、石岡町長、心といのちを守る会袴田俊英会長の3人による鼎談で、単独立町の理由を問われた石岡町長は「住民の意思を尊重した単独立町は、支えあうことではなにかやっていたらいい

う町民のメッセージと受け捉えた。昔からある、むこう三軒両隣の助け合い精神がこれからの福祉にも大いに繋がっていくはず」と述べました。大橋理事長からは「合併浄化槽整備等の助成金に町有林の売却利益を充てるアイディアも素晴らしいが、その町有林を後世に役立ててほしいと残した藤里町の先人たちも素晴らしい。こういった世代を超えた繋がりが地域福祉のあり方だ」と評価を受けました。

スポーツの秋を満喫

各地区で運動会を開催

9月14日、町内各地区では秋の大運動会が開催され、アイディアあふれる種目に多くの町民が心地よい汗を流し、たくさん賞品を手に入れました。

この日は、小学校の野球・ミニバスケットボール等の試合が重なり、子どもたちの姿こそ少なかったものの、その分大人たちが奮闘し、転んだり笑ったり様々なハプニングで運動会を盛り上げていました。



孫と一緒に（粕毛）